

横浜水道長期ビジョン

第1章 横浜水道長期ビジョンとは

1 位置づけ

「横浜水道長期ビジョン」(以下「ビジョン」という。)は、横浜市水道局が持続可能な水道事業と工業用水道事業^{※1}の経営を行うため、20~30年後を見据え、お客さまや事業に関わる皆さまと将来の姿を共有するためのものです。

これまでの「横浜水道長期ビジョン・10か年プラン」は、このビジョンに引き継ぎ、本ビジョンに基づき、具体的な実施計画である中期経営計画や毎年度の予算・運営方針を策定し、事業を運営します。

また、このビジョンは、厚生労働省が「新水道ビジョン」^{※2}の内容の実現に向け、水道事業者に策定を勧めている「水道事業ビジョン」に位置付けます。

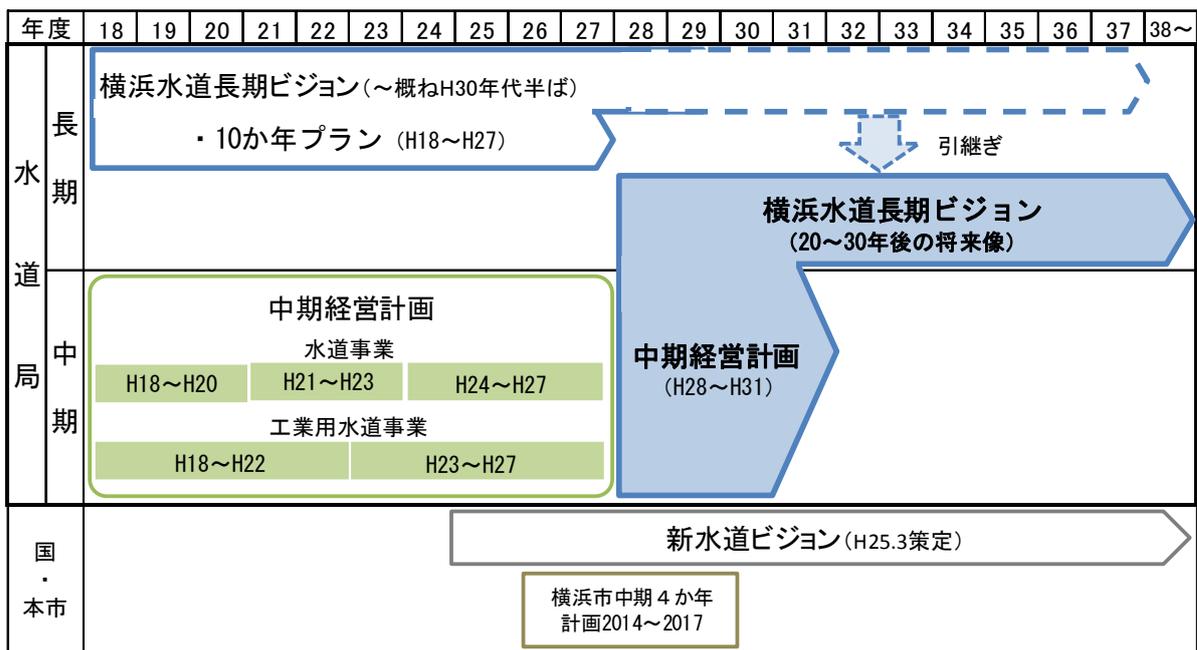


図 水道局と国・本市の計画の関係

※1 京浜工業地帯の地下水汲み上げによる地盤沈下対策として昭和35年に創設した、主に製造業やエネルギー産業をはじめとした企業に塩素処理等をしていない工業用水を供給している事業。
 ※2 平成25年3月に厚生労働省が策定・公表した日本の水道事業の指針。50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像を「安全、強靱、持続」とし、その具現化に向けて当面の間に取り組むべき事項、方策等が示されています。

2 ビジョンの構成

近代水道^{※1}創設以来 128 年の横浜水道のあゆみと将来の事業環境を踏まえて、水道事業と工業用水道事業の目指す将来像とその実現に向けた取組の方向性を示します。



※1 鉄管などを用いて有圧給水し、24 時間 365 日いつでも使うことができる水道のこと。